

神奈川からがんをなくす会(ACクラブ)

総 括

ACクラブ発足後17年が経過した。平成14年度の新入会員は7名(男4名,女3名)である。

検診項目別にみると男性では消化器と肺の検診者が71.1%,肺のみ24.7%。女性では消化器と子宮,乳の検診者が60.8%,消化器,肺,子宮,乳の検診者が20.4%で,昨年度とほぼ同様である。

年齢階級別にみると男性は60歳代後半が最も多く,70歳代前半,60歳代前半がこれに続く。女性では60歳代後半が最も多く60歳代前半がこれに続き,60歳代が42%を占める。会員の高齢化が目立つ。

付加検診の利用者は227名で,昨年度と変わらず。要再・精検者は55名,24.2%であった。

オプション項目であるPSAによる前立腺スクリーニング検査の受診者は34名。精検の対象となるPSA値8.0ng/mlを越えるものはみられなかった。同じくオプション項目骨粗鬆症予防検査受診者は19名。

本年度のACクラブの検診では膵がん1名,乳がん1名が発見された。

消化器がん検診

ACクラブの受診者432名のうち,消化器検診として上部X線検査を受診したのは220名で毎年減少している。このうち,内視鏡を受診したのは15名で胃ポリープ4名,胃潰瘍2名が発見された。毎年胃がんの発見は少なく会員が固定しているので発見疾患も少ない。

腹部超音波検査の受診者は男163名,女131名の合計294名である。対象臓器は,胆のう,肝臓,大動脈,膵臓,腎臓などで,エコーによる描出率はいずれも100%近く良好であった。発見された疾患や異常所見は胆のうポリープ,胆石症,胆のう胞,腹部大動脈異常,腎のう胞,腎石灰化などで,最近脂肪肝の増加が目立っている。これは肥満,飲酒,栄養摂取のかたより,運動不足などの要因があげられる。膵癌が1名発見された。

便潜血反応検査による大腸がん検診は男170名,女131名の合計301名である。潜血反応の陽性者は17名で注腸X線と大腸内視鏡の併用による精密検査の受診者は13名で大腸ポリープ6名と結腸憩室症が4名発見された。

肺がん検診

肺がん検診は年二回の胸部単純写真2方向が会の発足以来の原則であった。単純X線像であっても会の方針通りに丹念に比較読影をし微細な変化を捉えればほとんど早期のうちに診断しえたのは今までの報告(年

報も含めて)通りである。この時点においても大凡限られた集団であるACCでは毎年がんを発見することは少なかった。即ち数年に何例かが出現するのが常であった。それは限られた集団であるからこそ話でいわば毎年検診し尽くしてしまっていたといえる。CTをルーチン検査に加えて年が経ったがやはり同じことがいえる。CT検診は肺がんの発見率を高めると考えられている傾向がある。CTは筆者のいう前倒し検診であって単純では数年遅れるであろう肺がんを極く早期に拾い出しているところに価値があり,決して肺がんをつくり出している訳ではない。

乳がん検診

初回検診者は3名,再検者は122名である。精検及び半年以内の再検者は1名である。初回受診の1名からがんが発見された。

ACクラブ発足時の昭和61年度に初回検診を受けた94名のうち24名が平成14年度に受診し,そのうち10名が17年間連続受診している。昭和62年度初回受診の81名では22名が平成14年度に受診し,うち8名が16年間連続受診している。平成1年度に初回受診の20名では6名が平成14年度に受診,うち3名が連続受診している。平成3年度に初回受診の15名では7名が平成14年度に受診し,うち3名が連続受診している。

ACクラブ発足後17年間の乳がん検診受診者実数(会員数)は366名で,延観察数は2,560名,発見乳がんは11名,がん発見率は0.43%(乳がん数/延観察数)である。

子宮がん検診

平成14年度の子宮頸がん検診受診者は106名であった。このうち94名が同時に子宮体がん検診を受診した。

検診の結果8名が要再検となった。要精検者はなかった。

8名の内訳は,頸部細胞診に軽度異常を認めたもの2名,体部細胞診で異常を認めたもの0名,頸部細胞診で異常がみられた2名も,エストロゲンテスト後の再検では陰性であった。

その他の疾患として,卵巣腫瘍を疑われたもの1名,子宮留水症1名,子宮筋腫4名が指摘されたが,卵巣腫瘍疑いのものは卵巣クリニック精査の結果異常なく,子宮留水症,筋腫の5名についても経過観察中である。

関係の集計表は103~105頁に掲載